

アウトドアスポーツ競技団体理念の認知が競技者の環境配慮行動に及ぼす影響
～フレスコボール競技を事例として～

1250402 井上慎也

研究背景

我が国のアウトドアスポーツは、近年の健康意識の高まりやアウトドア人気から注目を集めており、スポーツ庁のアウトドアスポーツ宣言に伴い、アウトドアスポーツに必要な不可欠な要素である自然環境の保護も重要性を再認識され始めている。アウトドアスポーツ統括団体の多くは「自然環境保護」や「水辺環境保全」を活動理念に掲げて活動を行っている現状がある。また組織理念に関する先行研究では、理念の認知は競技者の意識を高めるものであると考えられるものの、それが競技者に届いているかどうかは明らかにされていない。そのため本研究では、競技者の環境配慮意識、行動の程度を明らかにした上で理念の認知が競技への愛着やロコミ行動につながるのかにも着目し検討していく。

研究目的

本研究は、「競技者の環境配慮行動がどの程度を明らかにすること」と「理念に対する認知がそれらにどの程度影響しているのかを明らかにすること」「環境配慮意識と競技愛着やロコミ行動との関連性を明らかにすること」の3点を目的とした。

研究方法

フレスコボール競技者を対象として、質問紙調査を行った。主な調査項目は、基本的属性、統括団体理念の認知度、環境配慮意識に関する項目、ロコミ行動に関する項目、競技愛着に関する項目であった。

分析結果

「理念認知群」に属する人は「理念非認知群」に属する人より環境配慮行動、競技愛着、ロコミ行動が高まることが明らかになった。また、理念の浸透が競技者の環境配慮意識を高めることが明らかになったほか、競技愛着に関しても同様に高まる傾向が見られた。

考察・結論

アウトドアスポーツ競技において、理念の浸透は競技への愛着を高めるとともに、競技者の環境配慮行動も高めることに繋がると考えられる。またアウトドアスポーツ競技団体が持つ「自然環境保護」に関する理念を届けることで、より多くの競技者が負荷のかかるPEB（資源・エネルギーの削減）の実践に影響を与えることができるという可能性が示された。